


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立むつ養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（外部との連携）		
	単元(題材)名	平仮名を読もう、平仮名を書こう		
	単元(題材)の目標	平仮名を覚え、読んだりなぞったりできる。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	4 年 2 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<ul style="list-style-type: none"> ・発語は不明瞭であるが、一文字一文字確認しながら発音することで、名前を話すことができるようになってきた。 ・平仮名や片仮名の文字に興味があり、日常生活で使う文字を読むことが増えてきている。 ・正しくなぞり書きできる文字が増えてきている。 		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad		
	使用したアプリケーションの名称	ワオっち あいうえおにぎり もじあそび		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	平仮名を読むことができるようになるためには、文字と音声を一致させる必要があるため、iPad アプリの特徴の一つである文字を音声化する機能を活用し、一人でも学習を進められるようにする。		
活用の状況と支援	<p>活用の状況と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活用場面 <ul style="list-style-type: none"> ・国語（その日の学習内容を終えた後） ○行った支援 <ul style="list-style-type: none"> ・iPad を使用している時は、iPad の操作状態を視覚的に捉え、注意しながら使用できるように教師の言葉掛けを極力少なくした。 ・使用するアプリだけを使える状態にセットし、アプリの操作を簡単にした。 ○児童の様子・変容 <ul style="list-style-type: none"> ・アプリを使用することで、文字に興味をもって平仮名や片仮名を学習する様子が見られた。 ・プリント学習での直しは苦手な児童だが、アプリを活用することで花丸やスタンプをもらえることを楽しみ、何度も間違い直しに挑戦することができるようになった。 ・アプリを活用することで、間違い直しに抵抗感が少なくなり、さらに、自分なりに答えに近づけるように考え、指を進める方向を変えるなど、工夫して取り組むことができるようになった。 <p>▲音声が聞こえてきているが音声より画面に集中しているため、音声と文字の一致という点での効果は得られなかった。iPad を活用した個別指導であれば有効と思われる。</p>			